

第2回 富田林市金剛地区再生指針策定協議会 議事概要

1. 開催概要

○日時：平成28年9月2日（金）午後3時～5時

○場所：金剛連絡所 2階大ホール

○出席者

◆協議会委員 18名

友田委員、中井委員、溝口委員、山田委員、吉村委員、増田委員、小野委員、原山委員、寺田委員、岡本委員、藤本委員、中谷委員、市川委員、中西委員、東委員、井筒委員、藤原氏（三崎委員代理）、北野委員

◆事務局 5名

坂本次長（まちづくり政策部）

仲野次長代理兼課長、尾崎課長代理兼政策係長、坂口地域整備係長、羽田主査（まちづくり推進課）

◆コンサルタント 2名

小倉、西村（株式会社市浦ハウジング&プランニング）

◆傍聴人 3名

○当日の流れ

① 開会

② 議事

(1) これまでのおさらいと今後の流れ

(2) 金剛地区活性化に向けた取り組みの検討について

(3) 次回協議会について

③ 閉会

2. 当日の様子



3. 議事

(1) これまでのおさらいと今後の流れ

- ・富田林市が現在検討している公共施設等総合管理計画では、人口減少が前提とされている。一方で、金剛地区再生指針では新たな居住者の呼び込みを検討しており、公共施設等総合管理計画の方針と異なる考えにならないか。地区内の公共施設に関わる方針など、市で考えていることや検討していることは、示してほしい。

- 地域にとっては、UR都市機構や南海電鉄が大きな影響力を持っていると思うので、地区活性化について一緒に考える方向で発言もいただきたい。また今後、取り組みの推進体制や責任に関する議論も出てくると思うが、市にも重要な役割があり、責任を持って考えていただきたい。
- 再生指針は、市も参画して地域のみなさんでつくるものだと思う。また市は、ここで出された意見等を金剛地区だけでなく、市全体のこととして受け止め、他の計画に反映すべき部分は反映していくという前提で議論したい。
- 協議会では、まちにとって何が大事で、何に取り組みなければならないか積極的に議論したい。

(2) 金剛地区活性化に向けた取り組みの検討について

- 買い物のサービスとして、買い物代行という取り組みも考えられるのでは。現在、シルバー人材センターや自治会、いっぴくシステム事業で高齢者を対象に買い物代行を実施している。
- 「いきいき安全安心」の取り組みは、高齢者支援、子育て支援というように世代ごとに分けた縦割り型になっているが、世代間交流を促すためには一体的に取り組んだ方がよいのでは。
- 「世代間交流」ということを1つのテーマとして考えてもよいのでは。他の地域では、週1回高齢者も参加するサロンを開催し、地域交流を促進している保育園もある。
- 高齢者支援に関する取り組みは、関心が高いと思う。高齢者の居場所づくりとして、教室やサロンなどの外出機会をつくりだすことも追加していくべきだと思う。
- 学校は地域文化の拠点だと思う。運動場は地域のスポーツ団体も使えるし、防災にも役立つ。学校の設備のあり方も含めて、学童保育や地域の人も使える場として活かしていくべきでは。また葛城中学校が行う地域清掃に、地域住民も参加してもよいのでは。
- 学校の地域利用について、高辺台小学校では福祉委員会や自治会が鍵を預かり、地域住民がサロンやカラオケなどに使用している。高齢者の交流機会として、自治会では週2回サロンを開催しているが、このような場が広がってほしい。そのためには、場所・人員配置・費用のハードルがある。
- 地区活性化の取り組みを実現していくためには、公共施設等総合管理計画との整合性、行政からの支援なども重要だと思う。市の考えを示してほしい。
- 海外では、学校は地域の歴史や地史を知ることのできる場となっている。そのような観点でいうと、学校の活用は「住民が育てる」のテーマで考え、現状の使われ方を整理した上で、今後の可能性を探ってもよいのでは。
- 地区活性化の取り組みは、ハードとソフトを組み合わせるべきではないだろうか。例えば、中央公園や寺池、ピュア金剛などのハードをどのように使っていくか、住民参加型で取り組みを考えるなど。
- 中長期的な視点からいうと金剛駅の活性化も重要では。金剛駅は、大阪狭山市域内にあるということが課題では。大阪狭山市とともに、駅前空間の再編を検討することも考えてほしい。
- 公共空間の再生には、デザインを考えてもらう方にも参加してもらい、住民と一緒に考えることができればよいのでは。

- 子どもが文化的に触れ合える機能なども、まちにとって必要ではないだろうか。
- 「豊かで多機能」のテーマに関わるが、ワーキングで議論できることと、集合住宅の建替えや駅前再生などの市・専門家による議論があると思う。
- 駅前空間は、人が集まってにぎわえる場がない。
- 駅前空間は、まちの顔で大事だと思う。ピュア金剛は、今後どうするのか UR 都市機構の考えを示してほしい。
- ピュア金剛の活用は、UR 都市機構が動かさなければならないのでは。駅前の分譲団地は、低層部に商業施設を入れて建替えるなどの発想もできるのではないだろうか。そのためには、用途地域の変更も必要になると思う。
- 寺池公園と金剛駅前の再生については、大阪狭山市と話し合っていくべき。寺池公園の桜は、植樹から 50 年経過しているので、地区活性化と合わせて検討してほしい。
- パブリックスペースについて、どのように使いこなせるか、住民参加の使いこなしなど、その手法を議論できればよい。
- 子育てにおける一つの課題として、待機児童の問題がある。金剛地区は待機児童数が多い地域だが、これを解決すれば、例えば堺市で保育所等に入所できなかった家族が金剛地区に引っ越してきてくれるなど、チャンスに転換できるかもしれない。再生指針では、若年世代を呼び込むという視点も加えてほしい。
- 再生指針では、中長期的なビジョンをどのような枠組みで考えるか検討してほしい。本日の資料にあるような課題解決型の取り組みとあわせて、情報発信力を高めることや将来的に機能転換を行うことなども考えるべきでは。
- 再生指針は、行政の考えを示していくものではなく、私たちがどのようなまちのあり方、取り組みが望ましいか考え、その思いを指針に書き込んでいくものではないか。その上で、市にどう取り組めるか考えてもらってもよいのでは。
- 再生指針は、想いを語ることでできる計画であるなら、空き店舗や空き家等を貸してほしいというメッセージを書き込んでもよいのでは。
- 再生指針では、どのように取り組みを実現するかということも大事だが、みんなで目標を共有することも大切では。その上で、どうすれば実現するか考えていってもよいのでは。
→再生指針に示す取り組みは、地域自ら取り組むというスタンスも大事だと思う。地域だけではできない部分があれば、UR 都市機構や市などに協力をお願いすることもできるのでは。
- 再生指針をつくることが最終的な目的ではなく、金剛地区のことをみんなで考えて取り組みを進める中で、再生指針を作り直し続けていくことができればよいのでは。
- 地区活性化に取り組んでいくには、目標とする住民の暮らし方やまちの姿を共有することも大事では。そのために、どのように取り組むか考えてもよいのでは。
- 教育と医療、就労など、まちの中でつながっていくことが重要。どのようにつなげていくか、そのしくみを考えていくことが必要ではないか。また、地域に対するプライドをどのようにみんなで作るかも重要だと思う。

- リーディングプロジェクト、推進体制に関して、具体的にどれからアクションを起こし、どのように取り組むか、大きな仕組みを協議会で議論しておきたい。
- 取り組みを実現するには、担い手をどう確保するかも重要では。すべての取り組みでいろんな人が参加できるようにしていくべきだと思う。
- ピュア金剛について、これまでの経緯等をUR都市機構から説明してほしい。
→これまでの経緯については、次回協議会までに整理して報告する。今後の方針としては、取り壊しや耐震補強などを社内で検討中である。
- 海外の近隣センターの再生事例としては、耐震補強等の新たなハード整備をせずに、パオのようなテント張りをして、マルシェを開いているところもある。
- 銀座商店街の空き店舗は、どうなっているのか、UR都市機構に伺いたい。
- 金剛バルは、2年前から行っており、今年は11月26日に開催する。今年は、保育園・幼稚園児に装飾を作ってもらおう。みなさんにもぜひ協力いただきたい。金剛バルは、地域の冬のイベントとして定着させていきたい。
- ニュータウンの考え方である近隣住区論では、住宅地面積の10%を公園とし、中心部に公民館と公園、小学校を配置することとされている。公園の意味としては、お祭り広場であり、お祭りがコミュニティ形成の場として捉えられている。
- 全国のニュータウンでは、祭りなどが定着した地域が少ないが、近年そのような動きも出てきている。泉北ニュータウンでは、大蓮公園で市民参画型の公園を使いこなすプログラムが実現される。

(3) 次回協議会について

- 次回協議会の日程は、12~1月を想定している。日時は追って決める。
- 意見交換会(10/16午後1時~)、大阪大谷大学生とのまちあるきワークショップ(10/29午前9時~)を開催するので、協議会委員のみなさまにも参加いただきたい。
- 今後の協議会は、開催回数を増やして、課題解決型だけではカバーできない中長期的視点を取り入れた取り組みや将来像の共有、推進体制などに関する議論をしてもよいのでは。